

授業計画(シラバス)

科目名	倫理学		指導担当者名	高橋 司	
実務経験				実務経験:	
開講時期	前期		対象学科学年	救急救命士科1年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:	
単位数	2単位		週時間数	2時間	
学習到達目標	医療現場における倫理的課題に気づく力を養い、その課題を分析し解決方法を検討、解決に必要な対話力をグループワーク等を通し身につける。				
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験(60%)、授業態度(20%)、提出物(20%)とし、100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A、・79～70点…B、・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)				
使用教材	系統看護学講座別巻 看護倫理、救急救命士標準テキスト				
授業外学習の方法	テキストを使用した問題演習				
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	倫理とは何か	テキストに準拠(p10-12)		
	2	倫理理論	テキストに準拠(p12-18)		
	3	他者理解と対話のための理論	テキストに準拠(p18-23)		
	4	生命倫理とはなにか	テキストに準拠(p24-27)		
	5	生命倫理の理論	テキストに準拠(p28-33)		
	6	生命倫理と看護職の責務	テキストに準拠(p34-41)		
	7	死について	テキストに準拠(p60-62)		
	8	死と医療	テキストに準拠(p63-65)		
	9	死についての生命倫理の課題	テキストに準拠(p66-73)		
	10	まとめ	まとめ		
	11	事例分析	グループワーク、ディベート		
	12	事例分析	グループワーク、ディベート		
	13	事例分析	グループワーク、ディベート		
	14	事例分析	グループワーク、ディベート		
	15	まとめ	事例分析の振り返り		
履修上の留意点					
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。					

授業計画(シラバス)

科目名		コミュニケーション学		指導担当者名		阿部 純也		
実務経験							実務経験:	
開講時期		後期		対象学科学年		救急救命士科1年		
授業方法		講義:○		演習:		実習:		実技:
単位数		2単位		週時間数		2時間		
学習到達目標		この講義を受講することにより、自己表現及び人間関係の円滑化を身に付けることに努める。すなわち、 (1)TPOに応じた表現と振る舞いの仕方の習得。 (2)プレゼンテーション能力の向上と技法習得。 (3)自身分析とそれによる、自己表現力の習得。 以上により、社会人としての自己形成とコミュニケーション力を身につける。						
評価方法 評価基準		学習評価は、レポート(70%)、出席・提出物・授業態度(30%)として行う。 評定は、学習到達目標や内容に照らし次の4段階とする。 ・特に高い程度に達成しているもの…A、・高い程度に達成しているもの…B、・おおむね達成しているもの…C ・達成が不十分なもの…D(不合格)						
使用教材		勝つための就職ガイドSuccess						
授業外学習 の方法		テキストを使用した問題演習						
学期	ターム	項 目			内容・準備資料等			
授業計画 後期	1	就職活動・社会人について			テキスト参照			
	2	自己分析①			長所・短所・性格			
	3	自己分析②			経歴・資格等			
	4	自己分析③			自己PR・自分史			
	5	情報収集・企業研究①			求人情報			
	6	情報収集・企業研究②			求人情報			
	7	自己分析のまとめ			効果的な表現・正しい言葉遣い			
	8	自己分析のまとめ			効果的な表現・正しい言葉遣い			
	9	コミュニケーション実習			自己PR			
	10	コミュニケーション実習			伝達			
	11	作文・論文指導			オリジナルプリント			
	12	作文・論文指導			オリジナルプリント			
	13	作文・論文指導			オリジナルプリント			
	14	集団討論			グループディスカッション			
	15	集団討論			グループディスカッション			
履修上の留意点								
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。								

授業計画(シラバス)

科目名		情報処理		指導担当者名		古川美恵子		
実務経験							実務経験:	
開講時期		前期		対象学科学年		救急救命士科1年		
授業方法		講義:○		演習:		実習:		実技:
単位数		2単位		週時間数		2時間		
学習到達目標		正しいビジネス文書の作成 サーティファイWord文書処理技能認定試験3級合格						
評価方法 評価基準		学習評価は、定期試験、課題提出、小テスト及び授業への取り組み姿勢等を100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A、・79～70点…B、・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)						
使用教材		クイックマスターWord2016(ウイネット)・文書処理技能認定試験3級問題集(サーティファイ)						
授業外学習の方法		テキストを使用した問題演習						
学期	ターム	項 目			内 容・準備資料等			
授業計画 前期	1	タッチタイピング練習			タッチタイピングの理解、タイピングソフトの活用			
	2	Wordの基本操作、文字入力			画面構成、名称等の理解			
	3	文書の編集			文書の書式設定、さまざまな編集機能の理解			
	4	様々な機能			メリハリのある文書作成の実践			
	5	ビジネス文書の成り立ち			ルールに則った形式の理解			
	6	新規文書作成			新規ビジネス文書の作成			
	7	表作成と編集①			罫線と文字入力の理解			
	8	表作成と編集②			効率のよい表作成の理解			
	9	図形の作成と編集			画像の挿入等の理解			
	10	文書処理技能認定試験3級問題集			文書作成技能とビジネス実務への展開能力の実践			
	11	文書処理技能認定試験3級問題集			文書作成技能とビジネス実務への展開能力の実践			
	12	文書処理技能認定試験3級問題集			文書作成技能とビジネス実務への展開能力の実践			
	13	文書処理技能認定試験3級問題集			文書作成技能とビジネス実務への展開能力の実践			
	14	文書処理技能認定試験3級問題集			文書作成技能とビジネス実務への展開能力の実践			
	15	文書処理技能認定試験3級問題集			文書作成技能とビジネス実務への展開能力の実践			
履修上の留意点 ・タッチタイピングの習得 ・実務における正しいビジネス文書の作成 ※授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。								

授業計画(シラバス)

科目名		資料読解		指導担当者名		阿部 純也	
実務経験						実務経験:	
開講時期		前期		対象学科学年		救急救命士科2年	
授業方法		講義:○		演習:		実習:	
実技:							
単位数		2単位		週時間数		2時間	
学習到達目標		受講者はこの授業を履修することにより、新聞などの活字メディアやそのグラフ・統計を読みとり、分析、作図させる力を習得する。そして事務的な分析能力の向上により、資料解釈による効果的な知識吸収・理解を目指す。					
評価方法 評価基準		学習評価は、定期試験(80%)、出席・授業態度(20%)とし、100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A、・79～70点…B、・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)					
使用教材		オープンセサミシリーズ5(一般知能)					
授業外学習の方法		テキストを使用した問題演習					
学期	ターム	項 目		内容・準備資料等			
授 業 計 画 前 期	1	数表:実数・割合		講義:基本問題			
	2	数表:指数・構成比		講義:基本問題			
	3	数表:増減率		講義:基本問題			
	4	グラフ:実数・割合		講義:基本問題			
	5	グラフ:指数・構成比		講義:基本問題			
	6	グラフ:増減率		講義:基本問題			
	7	問題演習		総合問題演習			
	8	数表:実数・割合		講義:発展・応用			
	9	数表:指数・構成比		講義:発展・応用			
	10	数表:増減率		講義:発展・応用			
	11	グラフ:実数・割合		講義:発展・応用			
	12	グラフ:指数・構成比		講義:発展・応用			
	13	グラフ:増減率		講義:発展・応用			
	14	問題演習		総合問題演習			
	15	問題演習		総合問題演習			
履修上の留意点							
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。							

授業計画(シラバス)

科目名		人体の構造と機能 I		指導担当者名		今田 剛	
実務経験						実務経験:	
開講時期		前期		対象学科学年		救急救命士科1年	
授業方法		講義:○		演習:		実習:	
実技:		単位数		2単位		週時間数	
		2時間					
学習到達目標		救急現場においては傷病者の病態を的確に判断する必要がある。その土台となる基礎知識として、人体構造を解剖学で人体機能を生理学で体系的に学ぶ。					
評価方法 評価基準		学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A、・79～70点…B、・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)					
使用教材		人体の構造と機能[1]解剖生理学/医学書院、からだの地図帳、病気の地図帳、救急救命士標準テキスト改訂第9版、目で見えるカラダのメカニズム					
授業外学習の方法		テキストを使用した問題演習					
学期	ターム	項 目		内 容・準 備 資 料 等			
授業計画 前期	1	人体の構造と機能		人体の位置・方向・運動に関する用語			
	2	人体の構造と機能		体表からみた人体構造と名称			
	3	人体の構造と機能		体表からみえる人体構造の機能体腔内臓器の体表からの位置関係			
	4	生体の構成とその役割		生体の構成体液生体維持機能代謝			
	5	神経系		神経系の構成、中枢神経系			
	6	神経系		末梢神経系、自律神経系			
	7	神経系		脳の栄養血管、意識			
	8	神経系		運動、知覚、反射			
	9	感覚器系		感覚系とは視覚器平衡・聴覚器嗅覚器味覚器皮膚感覚器			
	10	呼吸系		呼吸系の役割、気道の構造と機能、胸郭の構造と機能			
	11	呼吸系		肺の構造と機能、酸素の取り込みと二酸化炭素の排出、呼吸の調節機能			
	12	循環系		心臓の構造と機能、脈管系の構造と機能			
	13	循環系		循環の成り立ち、循環の制御			
	14	消化系		消化系の構成と役割、口腔・咽頭、消化管			
	15	消化系		肝臓・胆道、膵臓、腹膜			
履修上の留意点							
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。							

授業計画(シラバス)

科目名	人体の構造と機能Ⅱ		指導担当者名	今田 剛
実務経験				実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	救急救命士科1年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:
単位数	2単位	週時間数	2時間	
学習到達目標	救急現場においては傷病者の病態を的確に判断する必要がある。その土台となる基礎知識として、人体構造を解剖学で人体機能を生理学で体系的に学ぶ。			
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)			
使用教材	人体の構造と機能[1]解剖生理学/医学書院、からだの地図帳、病気の地図帳、救急救命士標準テキスト改訂第9版、目で見えるカラダのメカニズム			
授業外学習の方法	テキストを使用した問題演習			
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	循環器系	心臓・脈管系の構造と機能	
	2	循環器系	循環の成り立ち	
	3	循環器系	循環の制御	
	4	循環器系	循環の制御	
	5	呼吸系	呼吸系の役割	
	6	呼吸系	気道の構造と機能	
	7	呼吸系	胸郭の構造と機能	
	8	呼吸系	肺の構造と機能	
	9	泌尿器系・生殖系	泌尿系の構造、腎臓、尿路	
	10	泌尿器系・生殖系	生殖系の構造と役割、男性生殖器、女性生殖器	
	11	内分泌系・免疫系	内分泌器官	
	12	内分泌系・免疫系	免疫系、アレルギー	
	13	筋・皮膚	筋の役割	
	14	筋・皮膚	皮膚の構造	
	15	まとめ	まとめ	
履修上の留意点				
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。				

授業計画(シラバス)

科目名	疾患の成り立ち		指導担当者名	今田 剛	
実務経験				実務経験:	
開講時期	前期		対象学科学年	救急救命士科1年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:	
単位数	4単位		週時間数	4時間	
学習到達目標	疾患の学習に必要な基本的病変、主要疾患の原因や発生機序を理解する。				
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A、・79～70点…B、・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)				
使用教材	救急救命士標準テキスト上巻、ビジュアルノート、病気の地図帳、解剖と生理、からだの地図帳				
授業外学習の方法	テキストを使用した問題演習				
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	疾患の原因、発症と経過	テキストに準拠		
	2	回復に必要な要素	テキストに準拠		
	3	疾患の予防	テキストに準拠		
	4	炎症、感染症	テキストに準拠		
	5	虚血、うっ血、出血、血栓と塞栓、梗塞、浮腫	テキストに準拠		
	6	糖質の代謝障害、糖尿病性昏睡、低血糖	テキストに準拠		
	7	脂質代謝異常、たんぱく質代謝異常	テキストに準拠		
	8	体液異常、電解質異常	テキストに準拠		
	9	酸塩基平衡障害	テキストに準拠		
	10	内分泌異常	テキストに準拠		
	11	退行性病変	テキストに準拠		
	12	進行性病変、腫瘍	テキストに準拠		
	13	先天異常、損傷	テキストに準拠		
	14	死、死体現象、死にかかわる手続きと検査	テキストに準拠		
	15	総復習	まとめ		
履修上の留意点					
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。					

授業計画(シラバス)

科目名	健康と社会保障		指導担当者名	阿部 純也	
実務経験				実務経験:	
開講時期	後期		対象学科学年	救急救命士科2年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:	
単位数	2単位		週時間数	4時間	
学習到達目標	保健医療制度の仕組みと現状を知り、医療系専門職としての見識を広げる。また、社会保障と社会福祉を支える制度を知ることによって医療従事者としての素養を育む。				
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A、・79～70点…B、・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)				
使用教材	改訂第9版救急救命士標準テキスト上巻				
授業外学習の方法	テキストを使用した予復習				
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	人間と人間生活	テキストに準拠		
	2	科学的思考の基礎	テキストに準拠		
	3	生命倫理と医の倫理	テキストに準拠		
	4	保健医療制度の仕組みと現状①	テキストに準拠		
	5	保健医療制度の仕組みと現状②	テキストに準拠		
	6	社会保障と社会福祉を支える仕組み①	テキストに準拠		
	7	社会保障と社会福祉を支える仕組み②	テキストに準拠		
	8	社会保障について考える	テキストに準拠		
履修上の留意点					
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。					

授業計画(シラバス)

科目名		救急医学概論Ⅰ		指導担当者名		渡邊好孝	
実務経験		消防機関での救急救命士業務従事				実務経験：有	
開講時期		前期		対象学科学年		救急救命士科1年	
授業方法		講義：○		演習：		実習：	
実技：		単位数		4単位		週時間数	
						2時間	
学習到達目標		・五感を活用した観察方法を理解する。 ・観察用資機材の構造と使用方法について理解する。 ・五感を活用した観察情報と観察用資器材を用いた情報の意味合いを理解する。 ・傷病者等との良好な関係力構築方法と問診内容について理解する。 ・緊急度・重症度判断を理解できる。・傷病者の傷病状態に応じた救命処置等を理解する。					
評価方法 評価基準		学習評価は、20点満点の試験を5回行い、その合計得点にて行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A、・79～70点…B、・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)					
使用教材		救急救命士標準テキスト、救急観察処置スキルマニュアル					
授業外学習の方法		テキストを使用した予復習					
学期	ターム	項目		内容・準備資料等			
授業計画前期	1	観察		観察の目的と意義、バイタルサイン			
	2	観察		観察の方法			
	3	現場活動の基本		状況評価～全身観察・重点観察			
	4	現場活動の基本		緊急度判断と医療機関選定			
	5	全身状態の観察		外見、気道、呼吸、循環			
	6	全身状態の観察		意識、神経学的所見			
	7	局所の観察		観察結果の表現～頭部・顔面・頸部			
	8	局所の観察		胸部～観察アルゴリズム			
	9	緊急度・重症度判断		緊急度と重症度			
	10	緊急度・重症度判断		判断の基準			
	11	資器材による観察		パルスオキシメーター～血圧計			
	12	資器材による観察		心電図モニター～血糖測定器			
	13	効果測定		観察・現場活動・緊急度判断			
	14	救急救命士が行う処置		気道確保・声門上気道デバイス			
	15	〃		気道確保・声門上気道デバイス			
履修上の留意点							
1. 自ら学ぶ意識を醸成する。 2. 傷病者の観察、判断、処置が傷病者の命を左右することを重大さを意識づける。 ※授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。							

授業計画(シラバス)

科目名		救急医学概論Ⅰ		指導担当者名		渡邊好孝		
実務経験		消防機関での救急救命士業務従事					実務経験：	有
開講時期		後期		対象学科学年		救急救命士科1年		
授業方法		講義：○		演習：		実習：		実技：
単位数		4単位		週時間数		2時間		
学習到達目標		・五感を活用した観察方法を理解する。 ・観察用資機材の構造と使用方法について理解する。 ・五感を活用した観察情報と観察用資器材を用いた情報の意味合いを理解する。 ・傷病者等との良好な関係力構築方法と問診内容について理解する。 ・緊急度・重症度判断を理解できる。・傷病者の傷病状態に応じた救命処置等を理解する。						
評価方法 評価基準		学習評価は、20点満点の試験を5回行い、その合計得点にて行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A、・79～70点…B、・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)						
使用教材		救急救命士標準テキスト、救急観察処置スキルマニュアル						
授業外学習の方法		テキストを使用した予復習						
学期	ターム	項目			内容・準備資料等			
授業計画後期	16	救急救命士が行う処置			気管挿管			
	17	〃			気管吸引、酸素投与			
	18	効果測定			声門上気道デバイス、気管挿管			
	19	体位管理・保温・止血			体位管理、体温管理			
	20	外傷処置			止血被覆、固定要領			
	21	静脈確保・薬剤投与			静脈確保、薬投			
	22	〃			静脈確保、薬投			
	23	効果測定			静脈確保、薬投			
	24	救急蘇生法			人工呼吸、胸骨圧迫、除細動器			
	25	救急蘇生法			心肺蘇生のプロトコール			
	26	効果測定			手技の確認			
	27	産科領域の処置			分娩介助法			
	28	在宅療法継続中の傷病者の処置			在宅療法資器材、傷病者搬送			
	29	傷病者搬送法			各種搬送法			
	30	まとめ			心肺蘇生、傷病者搬送			
履修上の留意点								
1. 自ら学ぶ意識を醸成する。 2. 傷病者の観察、判断、処置が傷病者の命を左右することを重大さを意識づける。 ※授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。								

授業計画(シラバス)

科目名		救急医学概論Ⅱ		指導担当者名		横山 亜矢	
実務経験		消防機関での救急救命士業務従事				実務経験： 有	
開講時期		前期		対象学科学年		救急救命士科1年	
授業方法		講義：○		演習：		実習：	
実技：		単位数		2単位		週時間数	
2時間							
学習到達目標		・病院前医療体制について理解する事ができる。 ・災害医療体制について理解し、説明、実施する事ができる。 ・消防機関における救急活動の流れや、救命士の役割について理解できる。					
評価方法 評価基準		学習評価は、定期試験と授業態度、小テストを総合して行う。 評定は、学習到達目標や内容に照らし次の4段階とする。 ・特に高い程度に達成しているもの…A、・高い程度に達成しているもの…B、・おおむね達成しているもの…C ・達成が不十分なもの…D(不合格)					
使用教材		改訂第9版救急救命士標準テキスト、標準多数傷病者対応MCLSテキスト					
授業外学習の方法		テキストを使用した予復習					
学期	ターム	項目		内容・準備資料等			
授業計画前期	1	救急医療体制		上巻P.286～P.294			
	2	救急医療体制		上巻P.286～P.294			
	3	災害医療体制		上巻P.295～P.311、MCLSテキスト			
	4	災害医療体制		上巻P.295～P.311、MCLSテキスト			
	5	病院前医療体制		上巻P.312～P.322			
	6	消防機関における救急活動の流れ		上巻P.323～P.332			
	7	消防機関における救急活動の流れ		上巻P.323～P.332			
	8	救急救命士の役割と責任		上巻P.333～P.336			
	9	救急救命士と傷病者の関係		上巻P.337～P.344			
	10	救急救命士に関する法令		上巻P.345～P.357			
	11	救急救命士に関する法令		上巻P.345～P.357			
	12	救急救命士の養成と生涯教育		上巻P.358～P.363			
	13	安全管理と事故対応		上巻P.364～P.369			
	14	感染対策		上巻P.370～P.383			
	15	ストレスに対するマネージメント		上巻P.384～P.388			
履修上の留意点							
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。							

授業計画(シラバス)

科目名		救急症候・病態生理Ⅰ		指導担当者名		岸田全人	
実務経験						実務経験:	
開講時期		前期		対象学科学年		救急救命士科1年	
授業方法		講義:○		演習:		実習:	
実技:							
単位数		4単位		週時間数		4時間	
学習到達目標		救急救命士が遭遇しうる疾患の症状等を理解する事で、それぞれの疾患に対する観察、判断また応急処置を実践できる知識を身に付ける。					
評価方法 評価基準		学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A、・79～70点…B、・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)					
使用教材		救急救命士標準テキスト改訂第9版下巻					
授業外学習の方法		テキストを使用した問題演習					
学期	ターム	項目		内容・準備資料等			
授業計画 前期	1	呼吸不全		総論、呼吸運動の障害			
	2	呼吸不全		気道の障害、肺胞の障害			
	3	呼吸不全		肺間質の障害			
	4	心不全		総論、病態生理			
	5	心不全		症候、種類			
	6	心不全		慢性心不全の急性増悪、現場活動			
	7	ショック		総論、循環血液量減少性ショック			
	8	ショック		心原性ショック、心外閉塞・拘束性ショック			
	9	ショック		血液分布異常性ショック			
	10	重症脳障害		総論、発症機序			
	11	重症脳障害		一次性脳病変と二次性脳病変、頭蓋内圧亢進			
	12	重症脳障害		脳ヘルニア、特殊な意識障害			
	13	心肺停止		総論、病態と原因			
	14	心肺停止		心電図分類、心肺蘇生中の循環、心拍再開後の病態			
	15	まとめ		まとめ			
履修上の留意点							
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。							

授業計画(シラバス)

科目名		救急症候・病態生理Ⅱ		指導担当者名		岸田全人		
実務経験							実務経験:	
開講時期		後期		対象学科学年		救急救命士科1年		
授業方法		講義:○		演習:		実習:		実技:
単位数		4単位		週時間数		4時間		
学習到達目標		救急救命士が遭遇しうる疾患の症状等を理解する事で、それぞれの疾患に対する観察、判断また応急処置を実践できる知識を身に付ける。						
評価方法 評価基準		学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A、・79～70点…B、・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)						
使用教材		救急救命士標準テキスト改訂第9版下巻						
授業外学習の方法		テキストを使用した問題演習						
学期	ターム	項目			内容・準備資料等			
授業計画後期	1	意識障害			A原因B随伴症候C判別を要する病態D緊急度・重症度の判断E現場活動			
	2	頭痛			A発生機序B分類C原因疾患D発症の状況E性状F随伴症候G緊急度・重症度の判断H現場活動			
	3	痙攣			A定義・概念B病態C種類D原因疾患E随伴症候F判別を要する病態G緊急度・重症度の判断H現場活動			
	4	運動麻痺			A定義・概念B発生機序C分類D原因疾患E随伴症候F判別を要する病態G緊急度・重症度の判断H現場活動			
	5	めまい			A定義・概念B発生機序C分類D原因疾患E随伴症候F判別を要する病態G緊急度・重症度の判断			
	6	呼吸困難			A定義・概念B分類C原因疾患D随伴症候E緊急度・重症度の判断F現場活動			
	7	喀血			A定義B分類C喀血による影響D原因疾患E判別を要する病態F緊急度・重症度の判断G現場活動			
	8	失神			A定義・概念B原因疾患C判別を要する病態D緊急度・重症度の判断E現場活動			
	9	胸痛			A定義・概念B発生機序C原因疾患D緊急度・重症度の判断E現場活動			
	10	動悸			A定義・概念B発生機序C原因疾患D随伴症候E緊急度・重症度の判断F現場活動			
	11	腹痛			A発生機序B原因疾患C部位D既往歴E随伴症候F緊急度・重症度の判断G現場活動			
	12	吐血・下血			A定義・概念B原因疾患C病態D判別に必要な病態E緊急度・重症度の判断F現場活動			
	13	腰痛・背部痛			A定義・概念B原因疾患C緊急度・重症度の判断D現場活動			
	14	体温上昇			A定義・概念B発症機序C病態D発熱の分類と種類E原因疾患F緊急度・重症度の判断G現場活動			
	15	まとめ			まとめ			
履修上の留意点								
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。								

授業計画(シラバス)

科目名		疾病救急医学Ⅰ		指導担当者名		今田 剛	
実務経験						実務経験:	
開講時期		後期		対象学科学年		救急救命士科1年	
授業方法		講義:○		演習:		実習:	
実技:							
単位数		4単位		週時間数		4時間	
学習到達目標		救急救命士の現場活動に必要な各種疾患を理解する。					
評価方法 評価基準		学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A、・79～70点…B、・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)					
使用教材		病気がみえる脳・神経、救急救命士標準テキスト下巻、ビジュアルノート、病気の地図帳					
授業外学習 の方法		テキストを使用した問題演習					
学期	ターム	項 目		内容・準備資料等			
授業計画 後期	1	脳梗塞、一過性脳虚血発作、脳出血		テキストに準拠			
	2	脳動脈瘤、くも膜下出血、脳動静脈奇形、もやもや病、髄膜炎		テキストに準拠			
	3	ギランバレー症候群、てんかん、脳腫瘍、変性疾患		テキストに準拠			
	4	呼吸不全、COPD、CO2ナルコーシス、気管支喘息		テキストに準拠			
	5	無気肺、気管支拡張症、肺炎		テキストに準拠			
	6	急性喉頭蓋炎、扁桃周囲膿瘍		テキストに準拠			
	7	肺結核、急性上気道炎、胸膜炎		テキストに準拠			
	8	気胸、肺血栓塞栓症、過換気症候群、肺癌		テキストに準拠			
	9	間質性肺炎、ARDS		テキストに準拠			
	10	動脈硬化症、うっ血性心不全		テキストに準拠			
	11	急性冠不全症候群、急性心筋梗塞		テキストに準拠			
	12	不安定狭心症、安定狭心症、心筋症、心タンポナーデ		テキストに準拠			
	13	心室細動、心室頻拍、心房細動		テキストに準拠			
	14	洞房ブロック、WPW症候群、洞不全症候群		テキストに準拠			
	15	心臓弁膜症、感染性心内膜炎、先天性心疾患		テキストに準拠			
履修上の留意点							
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。							

授業計画(シラバス)

科目名		疾病救急医学Ⅱ		指導担当者名		佐藤 武諭毅		
実務経験							実務経験:	
開講時期		後期		対象学科学年		救急救命士科1年		
授業方法		講義:○		演習:		実習:		実技:
単位数		4単位		週時間数		4時間		
学習到達目標		救急救命士の活動に必要な疾患が理解できる						
評価方法 評価基準		学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)						
使用教材		救急救命士標準テキスト9版上巻・下巻(へるす出版)						
授業外学習の方法		テキストを使用した問題演習						
学期	ターム	項 目			内容・準備資料等			
授業計画 後期	1	消化系疾患			テキストに準拠			
	2	消化系疾患			テキストに準拠			
	3	泌尿・生殖系疾患			テキストに準拠			
	4	代謝・内分泌・栄養系疾患			テキストに準拠			
	5	代謝・内分泌・栄養系疾患			テキストに準拠			
	6	血液・免疫系疾患			テキストに準拠			
	7	筋肉・骨格系疾患			テキストに準拠			
	8	皮膚系疾患			テキストに準拠			
	9	眼・耳・鼻の疾患			テキストに準拠			
	10	眼・耳・鼻の疾患			テキストに準拠			
	11	感染症			テキストに準拠			
	12	小児に特有な疾患			テキストに準拠			
	13	高齢者に特有な疾患			テキストに準拠			
	14	妊娠・分娩と救急疾患			テキストに準拠			
	15	精神障害			テキストに準拠			
履修上の留意点								
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。								

授業計画(シラバス)

科目名		外傷救急医学Ⅰ		指導担当者名		岸田全人		
実務経験							実務経験:	
開講時期		前期		対象学科学年		救急救命士科1年		
授業方法		講義:○		演習:		実習:		実技:
単位数		2単位		週時間数		2時間		
学習到達目標		外傷は外力発生の種類、受傷機転、損傷の形態、損傷の部位などさまざまな分類があり、外傷学特有の診断、治療が必要である。外傷における救急救命士の役割は大きい。ため熟知する。						
評価方法 評価基準		学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評価する。 100点法による評価は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A、・79～70点…B、・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)						
使用教材		救急救命士標準テキスト改訂第9版下巻						
授業外学習の方法		テキストを使用した問題演習						
学期	ターム	項目			内容・準備資料等			
授業計画 前期	1	外傷総論			A外傷の疫学B受傷機転とエネルギーC外傷の分類D主な受傷形態			
	2	外傷総論			A外傷の疫学B受傷機転とエネルギーC外傷の分類D主な受傷形態			
	3	外傷の病態生理			A侵襲への反応B外傷に伴うショック			
	4	外傷の病態生理			A侵襲への反応B外傷に伴うショック			
	5	外傷の現場活動			A状況評価B傷病者の評価			
	6	外傷の現場活動			A状況評価B傷病者の評価			
	7	頭部外傷			A特徴B主な外傷C続発症・後遺症D現場活動			
	8	頭部外傷			A特徴B主な外傷C続発症・後遺症D現場活動			
	9	顔面・頭部外傷			A特徴B主な外傷C現場活動			
	10	顔面・頭部外傷			A特徴B主な外傷C現場活動			
	11	脊椎・脊髄外傷			A特徴B主な外傷C現場活動			
	12	脊椎・脊髄外傷			A特徴B主な外傷C現場活動			
	13	胸部外傷			A特徴B主な外傷C現場活動			
	14	胸部外傷			A特徴B主な外傷C現場活動			
	15	まとめ			まとめ			
履修上の留意点								
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。								

授業計画(シラバス)

科目名		外傷救急医学Ⅱ		指導担当者名		岸田全人		
実務経験							実務経験:	
開講時期		前期		対象学科学年		救急救命士科1年		
授業方法		講義:○		演習:		実習:		実技:
単位数		2単位		週時間数		2時間		
学習到達目標		外傷は外力発生の種類、受傷機転、損傷の形態、損傷の部位などさまざまな分類があり、外傷学特有の診断、治療が必要である。外傷における救急救命士の役割は大きい。ため熟知する。						
評価方法 評価基準		学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評価する。 100点法による評価は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A、・79～70点…B、・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)						
使用教材		救急救命士標準テキスト改訂第9版下巻						
授業外学習の方法		テキストを使用した問題演習						
学期	ターム	項目			内容・準備資料等			
授業計画 前期	1	腹部外傷			A特徴B主な疾患C現場活動			
	2	骨盤外傷			A特徴B主な疾患C現場活動			
	3	四肢外傷			A特徴B主な疾患C現場活動			
	4	皮膚・軟部組織外傷			A分類B現場活動C特殊な損傷			
	5	小児・高齢者・妊婦の外傷			A小児の外傷B高齢者の外傷C妊婦の外傷			
	6	熱傷			A受傷機転と病態B評価C処置			
	7	化学損傷			A各種の化学損傷B観察C処置			
	8	電撃症・雷撃症			A電撃症B雷撃症			
	9	溢頸・絞頸			A溢頸・絞頸とはB観察と処置			
	10	刺咬症(傷)			A刺咬症(傷)とはB哺乳類による咬症C爬虫類による咬症D節足動物による刺咬症E海洋生物による刺咬症			
	11	まとめ			まとめ			
履修上の留意点								
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。								

授業計画(シラバス)

科目名	環境障害・急性中毒		指導担当者名		高橋 司	
実務経験	消防機関での救急救命士業務従事				実務経験:	有
開講時期	後期		対象学科学年		救急救命士科1年	
授業方法	講義:○	演習:		実習:		実技:
単位数	2単位		週時間数	2時間		
学習到達目標	環境障害・急性中毒などの外部因子で発生する救急疾患・症候について理解できる					
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A、・79～70点…B、・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)					
使用教材	救急救命士標準テキスト改訂第9版下巻					
授業外学習の方法	テキストを使用した問題演習					
学期	ターム	項目	内容・準備資料等			
授業計画 後期	1	中毒総論	テキストに準拠			
	2	中毒各論	テキストに準拠			
	3	中毒各論	テキストに準拠			
	4	異物	テキストに準拠			
	5	異物	テキストに準拠			
	6	溺水	テキストに準拠			
	7	熱中症	テキストに準拠			
	8	熱中症	テキストに準拠			
	9	偶発性低体温	テキストに準拠			
	10	偶発性低体温	テキストに準拠			
	11	放射線障害	テキストに準拠			
	12	放射線障害	テキストに準拠			
	13	その他の環境障害	テキストに準拠			
	14	その他の環境障害	テキストに準拠			
	15	まとめ	まとめ			
履修上の留意点						
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。						

授業計画(シラバス)

科目名		シミュレーションⅠ		指導担当者名		高橋司・渡邊好孝・横山亜矢	
実務経験		消防機関での救急救命士業務従事				実務経験：有	
開講時期		前期		対象学科学年		救急救命士科1年	
授業方法		講義：		演習：		実習：○ 実技：	
単位数		10単位		週時間数		16時間	
学習到達目標		1五感と観察用資器材を活用し傷病者を的確に観察できる。 2救命処置の適応者を判断し安全に適切な処置が行える技術を身につける。 3傷病者の症状に適した体位管理と搬送ができる。 ・BLS(市民向け、医療従事者向け)の習得。 ・隊活動における一連の流れを習得する事ができる。 ・隊長の役割を認識し、包括的な力を身につける事ができる。					
評価方法 評価基準		学習評価は、以下の単元ごとに20点満点の試験、授業終了後のシミュレーション試験を行い、その合計得点にて行う。 評定は、学習到達目標や内容に照らし次の4段階とする。 ・特に高い程度に達成しているもの…A、・高い程度に達成しているもの…B、・おおむね達成しているもの…C ・達成が不十分なもの…D(不合格) ※単元…1初期評価と心肺蘇生 2声門上気道デバイスによる気道確保 3気管挿管 4静脈確保とアドレナリン投与 5血糖測定と、ブドウ糖投与					
使用教材		救急救命士標準テキスト、救急観察処置スキルマニュアル					
授業外学習の方法		テキストを使用した予復習					
学期	ターム	項目		内容・準備資料等			
授業計画前期	1	五感を活用した観察		バイタルサイン、全身観察			
	2	資器材を活用した観察		聴診器、体温計、血圧計等			
	3	資器材を活用した観察		ECG、カブノメーター			
	4	気道確保、人工呼吸		用手気道確保、BVMによる人工呼吸			
	5	外傷処置		三角巾、副子等			
	6	体位管理、搬送法		ストレッチャー、バックボード			
	7	酸素、AED、BVM		酸素、AED			
	8	気道確保、異物除去		用手、エアウェイ、喉頭鏡			
	9	搬送法		緊急救出(毛布、スクープ等)			
	10	産婦人科領域の処置		分娩介助等			
	11	在宅療法継続中傷病者処置		在宅傷病者の療法別対応			
	12	産婦人科領域の処置		分娩介助等			
	13	効果測定		観察要領、体位管理、搬送法			
	14	心肺蘇生		BVM、AED、シミュレーター			
	15	心肺蘇生		BVM、AED、シミュレーター			
履修上の留意点							
1シミュレーションをより効率的に進めるため、学生は積極的に参加し行動すること。 2使用救急資器材の配置場所の把握と愛護的な取り扱いを徹底すること。 3シミュレーション開始前に体操を行うこと。							

授業計画(シラバス)

科目名		シミュレーションⅠ		指導担当者名		高橋司・渡邊好孝・横山亜矢		
実務経験		消防機関での救急救命士業務従事					実務経験:	有
開講時期		後期		対象学科学年		救急救命士科1年		
授業方法		講義:		演習:		実習:○		実技:
単位数		10単位		週時間数		14時間		
学習到達目標		1五感と観察用資器材を活用し傷病者を的確に観察できる。 2救命処置の適応者を判断し安全に適切な処置が行える技術を身につける。 3傷病者の症状に適した体位管理と搬送ができる。 ・BLS(市民向け、医療従事者向け)の習得。 ・隊活動における一連の流れを習得する事ができる。 ・隊長の役割を認識し、包括的な力を身につける事ができる。						
評価方法 評価基準		学習評価は、以下の単元ごとに20点満点の試験、授業終了後のシミュレーション試験を行い、その合計得点にて行う。 評定は、学習到達目標や内容に照らし次の4段階とする。 ・特に高い程度に達成しているもの…A、・高い程度に達成しているもの…B、・おおむね達成しているもの…C ・達成が不十分なもの…D(不合格) ※単元…1初期評価と心肺蘇生 2声門上気道デバイスによる気道確保 3気管挿管 4静脈確保とアドレナリン投与 5血糖測定と、ブドウ糖投与						
使用教材		救急救命士標準テキスト、救急観察処置スキルマニュアル						
授業外学習の方法		テキストを使用した予復習						
学期	ターム	項目			内容・準備資料等			
授業計画後期	16	声門上気道デバイス			i-gel、コンピチューブ、LT、LM			
	17	声門上気道デバイスを含めた隊活動			適応症例に対する想定訓練			
	18	効果測定			声門上デバイス			
	19	気管挿管			気管内チューブ、スタイレット			
	20	気管挿管を含めた隊活動			適応症例に対する想定訓練			
	21	効果測定			気管挿管			
	22	静脈確保			留置針、輸液セット			
	23	静脈確保を含めた隊活動			適応症例に対する想定訓練			
	24	アドレナリン投与			輸液セット、アドレナリン			
	25	アドレナリン投与			輸液セット、アドレナリン			
	26	効果測定			輸液・アドレナリン投与			
	27	血糖測定、ブドウ糖投与			血糖測定器、輸液ライン、ブドウ糖			
	28	血糖測定、ブドウ糖投与を含めた隊活動			適応症例に対する想定訓練			
	29	効果測定			血糖測定とブドウ糖投与			
	30	エピペン			エピペントレーナー			
履修上の留意点								
1シミュレーションをより効率的に進めるため、学生は積極的に参加し行動すること。 2使用救急資器材の配置場所の把握と愛護的な取り扱いを徹底すること。 3シミュレーション開始前に体操を行うこと。 ※授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。								

授業計画(シラバス)

科目名		シミュレーションⅡ		指導担当者名		高橋司・渡邊好孝・横山亜矢	
実務経験		消防機関での救急救命士業務従事				実務経験：有	
開講時期		前期		対象学科学年		救急救命士科2年	
授業方法		講義：		演習：		実習：○ 実技：	
単位数		10単位		週時間数		10時間	
学習到達目標		1個々の救命処置スキルのさらなる質向上を目指す。 2隊員間の情報共有と役割分担を円滑に行うことができる。 3安全管理を意識した救急活動を行うことができる。 ・隊長の役割を認識し、包括的な力を身につける。 ・リスクマネジメントを含め、適切な判断ができる。 ・各病態について原因から処置まで説明、実施する事ができる。					
評価方法 評価基準		学習評価は、前期効果測定、後期効果測定を総合して行う。 評定は、学習到達目標や内容に照らし次の4段階とする。 ・特に高い程度に達成しているもの…A、・高い程度に達成しているもの…B、・おおむね達成しているもの…C ・達成が不十分なもの…D(不合格)					
使用教材		救急救命士標準テキスト、救急観察処置スキルマニュアル					
授業外学習の方法		テキストを使用した予復習					
学期	ターム	項目		内容・準備資料等			
授業計画前期	1	基本的な救急活動		状況評価から継続観察まで			
	2	疾患対応(異物)		早期異物除去と呼吸管理			
	3	外傷対応(転倒)		転倒原因の把握と適切な処置			
	4	疾患対応(胸痛)		適切な観察と緊急度判断			
	5	外傷対応(交通外傷)		緊急度判断と適切な処置			
	6	外傷対応(墜落・転落)		推定外力と受傷部位の想像力			
	7	疾患対応(意識障害)		観察・問診からの原因疾患の特定			
	8	CPA対応(VF)		早期除細動とアドレナリン投与			
	9	疾患対応(アナフィラキシー)		バイタルサインの把握と輸液			
	10	疾患対応(重症熱傷)		保温・感染防止と輸液			
	11	中毒対応(硫化水素)		安全管理・応援要請と現場保存			
	12	疾患対応(精神科)		傷病者接遇及び警察官との連携			
	13	災害対応(列車事故)		先着隊の行動			
	14	災害対応(交通事故)		応援隊の行動			
	15	前期効果測定		疾患対応			
履修上の留意点							
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。							

授業計画(シラバス)

科目名		シミュレーションⅡ		指導担当者名		高橋司・渡邊好孝・横山亜矢	
実務経験		消防機関での救急救命士業務従事				実務経験：有	
開講時期		後期		対象学科学年		救急救命士科2年	
授業方法		講義：		演習：		実習：○ 実技：	
単位数		10単位		週時間数		20時間	
学習到達目標		1個々の救命処置スキルのさらなる質向上を目指す。 2隊員間の情報共有と役割分担を円滑に行うことができる。 3安全管理を意識した救急活動を行うことができる。 ・隊長の役割を認識し、包括的な力を身につける。 ・リスクマネジメントを含め、適切な判断ができる。 ・各病態について原因から処置まで説明、実施する事ができる。					
評価方法 評価基準		学習評価は、前期効果測定、後期効果測定を総合して行う。 評定は、学習到達目標や内容に照らし次の4段階とする。 ・特に高い程度に達成しているもの…A、・高い程度に達成しているもの…B、・おおむね達成しているもの…C ・達成が不十分なもの…D(不合格)					
使用教材		救急救命士標準テキスト、救急観察処置スキルマニュアル					
授業外学習の方法		テキストを使用した予復習					
学期	ターム	項目		内容・準備資料等			
授業計画後期	16	疾患対応(意識障害・頭痛)		観察・問診・運動機能観察			
	17	疾患対応(痙攣)		問診と観察からの緊急度判断			
	18	疾患対応(めまい)		観察と問診及び医療機関選定			
	19	疾患対応(呼吸困難)		症状の把握と緊急度判断			
	20	外傷対応(交通外傷)		緊急度判断と適切な処置			
	21	外傷(刺創)		バイタルの把握と適切な外傷処置			
	22	CPA対応(溺水)		吐物除去と呼吸管理			
	23	CPA対応(乳児)		呼吸管理と胸骨圧迫			
	24	疾患対応(動悸)		問診と心電図波形の判断力			
	25	疾患対応(意識障害)		意識障害の原因特定と緊急度判断			
	26	中毒対応(胸痛)		胸痛の原因特定と緊急度判断			
	27	疾患対応(腹痛)		腹痛の原因特定と緊急度判断			
	28	外傷対応(失神)		緊急度判断と適切な処置			
	29	外傷対応(腹部外傷)		緊急度判断と適切な処置			
	30	後期効果測定		外傷対応			
履修上の留意点							
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。							

授業計画(シラバス)

科目名		臨床実習		指導担当者名		実習指導者		
実務経験							実務経験:	
開講時期		前期		対象学科学年		救急救命士科2年		
授業方法		講義:		演習:		実習:○		実技:
単位数		4単位		週時間数		36時間		
学習到達目標		関連知識の応用と、特定行為に係わる技術の見学を主体とし、診療補助に対する理解を深める。						
評価方法 評価基準		学習評価は、実習指導者が実習態度、理解度、総合評価についてそれぞれ4段階で行う。 評定は、学習到達目標や内容に照らし次の4段階とする。 ・積極的に適切な実習を行い、業務を理解できたもの…A、 ・積極性に欠けたが、業務については理解ができたもの…B、 ・積極性や業務理解に更に努力を要するもの…C ・実習態度や業務理解に問題があると判断された等、再実習が望まれるもの…D（不合格）						
使用教材		救急救命士標準テキスト						
授業外学習の方法		レポート作成、教科書を使用した予復習						
学期	ターム	項目			内容・準備資料等			
授業計画前期	1	臨床実習			病院の各部門を見学し、病院の機能について認識を深める。			
	2	臨床実習			医師、看護師等医療スタッフの仕事を理解し、その連携を知る。			
	3	臨床実習			病院における救急患者への対応の仕組みを知る。			
	4	臨床実習			救急室に搬入された救急患者への処置、診断の全体像を理解する。			
	5	臨床実習			ICU(集中治療室)における患者管理を理解する。			
					救急患者、家族に対するいたわりの心を持つ。			
					インフォームドコンセントの重要性を理解する。			
履修上の留意点								

授業計画(シラバス)

科目名		救急用自動車同乗実習		指導担当者名		実習指導者		
実務経験							実務経験:	
開講時期		前期		対象学科学年		救急救命士科2年		
授業方法		講義:		演習:		実習:○		実技:
単位数		1単位		週時間数		22.5時間		
学習到達目標		1)消防機関における救急救命士の果たすべき役割を学び、消防職員を目指す学生として使命感及び向上心を獲得する。 2)消防署内での業務及び救急現場活動を見学し、消防業務ならびに救急業務を理解する。 3)救急現場における救急隊員の接遇等を見学し、傷病者及び家族等への対応を習得する。 4)救急隊員が行う傷病者の観察方法ならびに観察結果を見学し、医学的知識及び技術の確認を行うとともに、現場対応能力を養う。						
評価方法 評価基準		学習評価は、実習指導者が実習態度、理解度、総合評価についてそれぞれ4段階で行う。 評定は、学習到達目標や内容に照らし次の4段階とする。 ・積極的に適切な実習を行い、業務を理解できたもの…A, ・積極性に欠けたが、業務については理解ができたもの…B, ・積極性や業務理解に更に努力を要するもの…C ・実習態度や業務理解に問題があると判断された等、再実習が望まれるもの…D(不合格)						
使用教材		救急救命士標準テキスト						
授業外学習の方法		レポート作成、教科書を使用した予復習						
学期	ターム	項目			内容・準備資料等			
授業計画前期	1	救急用自動車同乗実習			消防業務全般(火災予防、指導広報、警防、救急、救助等)			
	2	救急用自動車同乗実習			車両見学、消防庁舎見学、通信施設見学、資器材見学			
					救急・救護現場における救急隊員の活動を理解する			
					救急用自動車等の点検整備の重要性や機能及び特性を理解する			
履修上の留意点								

授業計画(シラバス)

科目名		一般知能		指導担当者名		岡崎 史紹		
実務経験							実務経験:	
開講時期		前期		対象学科学年		救急救命士科2年		
授業方法		講義:○		演習:		実習:		実技:
単位数		2単位		週時間数		2時間		
学習到達目標		情報処置及び課題解決に必要とされる論理的思考力を身に付ける。						
評価方法 評価基準		学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A、・79～70点…B、・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)						
使用教材		オープンセサミシリーズ5(一般知能)						
授業外学習 の方法		テキストを使用した問題演習						
学期	ターム	項 目			内容・準備資料等			
授業計画 前期	1	順序関係			使用テキストに準拠			
	2	対応関係			使用テキストに準拠			
	3	集合			使用テキストに準拠			
	4	論理			使用テキストに準拠			
	5	位置関係			使用テキストに準拠			
	6	試合			使用テキストに準拠			
	7	証言			使用テキストに準拠			
	8	暗号			使用テキストに準拠			
	9	数量			使用テキストに準拠			
	10	日暦算			使用テキストに準拠			
	11	手順			使用テキストに準拠			
	12	道順			使用テキストに準拠			
	13	平面図形			使用テキストに準拠			
	14	立体構成			使用テキストに準拠			
	15	まとめ			まとめ			
履修上の留意点								
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。								

授業計画(シラバス)

科目名		教養Ⅰ（自然科学）		指導担当者名		阿部 純也		
実務経験							実務経験:	
開講時期		前期		対象学科学年		救急救命士科2年		
授業方法		講義:○		演習:		実習:		実技:
単位数		2単位		週時間数		2時間		
学習到達目標		受講者はこの授業を履修することにより、自然科学の理解に必要な基礎的な考え方、知識の習得に努める。具体的には以下の項目となる。 (1)物理:速さ・力・エネルギーの各種法則とその計算。 (2)化学:化学式、イオン式、モル計算及び元素の分類と性質。 (3)生物:人体の構造及び生体の変化。 (4)地学:天候の変化の成因と気象図から読み取り及び地質。						
評価方法 評価基準		学習評価は、定期試験(80%)、出席・授業態度(20%)とし、100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A、・79～70点…B、・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)						
使用教材		オープンセサミシリーズ4(数学・理科)						
授業外学習の方法		テキストを使用した問題演習						
学期	ターム	項 目			内容・準備資料等			
授業計画 前期	1	物理:速度・落体運動・力のつりあい			速度・落体運動・力のつりあい			
	2	物理:速度・落体運動・力のつりあい			速度・落体運動・力のつりあい			
	3	物理:力学エネルギー・熱とエネルギー			力学エネルギー・熱とエネルギー			
	4	物理:力学エネルギー・熱とエネルギー			力学エネルギー・熱とエネルギー			
	5	化学:化学結合と結晶			化学結合と結晶			
	6	化学:気体の性質			気体の性質			
	7	化学:酸と塩基・中和			酸と塩基・中和			
	8	化学:酸化と還元・イオン化傾向			酸化と還元・イオン化傾向			
	9	化学:非金属元素と金属元素			非金属元素と金属元素			
	10	生物:固体の恒常性と調節			固体の恒常性と調節			
	11	生物:細胞・酵素			細胞・酵素			
	12	生物:問題演習			総合問題演習			
	13	地学:地殻の構成物質			地殻の構成物質			
	14	地学:気象現象			気象現象			
	15	地学:問題演習			総合問題演習			
	16							
履修上の留意点								
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。								

授業計画(シラバス)

科目名		教養Ⅱ（社会科学）		指導担当者名		阿部友紀		
実務経験							実務経験：	
開講時期		前期		対象学科学年		救急救命士科2年		
授業方法		講義：○		演習：		実習：		実技：
単位数		2単位		週時間数		2時間		
学習到達目標		受講者はこの授業を履修することにより、現代社会の成り立ち及び国内の政治の諸制度、国際情勢、経済状況を理解するために必要な基礎的な考え方、知識の習得に努める。具体的には以下の項目となる。 (1)政治：民主政治の形成に至るまでの世界の主要な歴史と制度、わが国の政治諸制度と法制度の発展による現代社会の形成に至る流れ。 (2)経済：近代以降の経済体系の発展から現代にいたるまでの経済の仕組み及び、わが国の経済循環と国際社会との関わり。 (3)時事問題：現代の国内外の諸問題のについて現状把握。						
評価方法 評価基準		学習評価は、定期試験(60%)、出席(20%)、授業態度(20%)とし、100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A、・79～70点…B、・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)						
使用教材		オープンセサミシリーズ1（政治・経済・社会）						
授業外学習の方法		テキストを使用した予復習						
学期	ターム	項目			内容・準備資料等			
授業計画前期	1	政治：民主主義の基本原理と制度			社会契約説・各国の政治制度			
	2	経済：市場経済			経済学の歴史・需要と供給・市場			
	3	政治：日本国憲法に基本原理と基本的人権			大日本帝国憲法と日本国憲法			
	4	経済：市場経済			資本結合・価格・企業形態			
	5	政治：日本国憲法に基本原理と基本的人権			基本的人権			
	6	経済：国民経済の流れ			経済循環・国民所得・景気の変動			
	7	政治：日本国憲法の統治機構			国会・内閣			
	8	経済：国民経済の流れ			金融の仕組と役割			
	9	政治：日本国憲法の統治機構			裁判所・地方自治			
	10	経済：国民経済の流れ			財政の仕組と役割			
	11	政治：政治の諸問題			選挙の原則・選挙区制度・時事			
	12	経済：日本経済の発展			高度経済成長			
	13	政治：国際政治			国際連盟と国際連合主な国際機関			
	14	経済：国際経済			貿易と国際収支・円高と円安			
	15	総合問題演習			総合問題演習			
履修上の留意点								
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。								

授業計画(シラバス)

科目名		教養Ⅲ(総合)		指導担当者名		阿部 純也		
実務経験							実務経験:	
開講時期		前期		対象学科学年		救急救命士科2年		
授業方法		講義:○		演習:		実習:		実技:
単位数		4単位		週時間数		2時間		
学習到達目標		受講者はこの授業を履修することにより、現代社会の成り立ちを理解するために必要な基礎的な考え方、知識の習得に努める。具体的には以下の項目となる。 (1) 歴史: 日本と世界の主要な歴史とそれをもとに現代社会の形成に至る流れ。 (2) 地理: 世界各国の地勢及び地誌を産業や人口的な面などから分析。 (3) 政治経済: 民主政治の展開と現代社会の政治問題、経済問題。 (4) 時事問題: 現代の国内外の諸問題のについて現状把握。						
評価方法 評価基準		学習評価は、定期試験(80%)、出席・授業態度(20%)とし、100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A、・79～70点…B、・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)						
使用教材		オープンセサミシリーズ1(政治・経済・社会)・2(日本史・世界史・地理・思想)						
授業外学習 の方法		テキストを使用した問題演習						
学期	ターム	項 目			内容・準備資料等			
授業計画 前期	1	日本史(古代)			古代			
	2	日本史(中世)			中世			
	3	日本史(近世)			近世			
	4	日本史(近代)			近代			
	5	日本史(近現代)			近現代			
	6	問題演習			問題演習			
	7	世界史(古代・中世)			古代・中世			
	8	世界史(近世)			近世			
	9	世界史(近代ヨーロッパ)			近代ヨーロッパ			
	10	世界史(中国・アジア史)			中国・アジア史			
	11	世界史(近現代史)			近現代史			
	12	問題演習			問題演習			
	13	地理(地形・気候)			地形・気候			
	14	地理(気候・農業)			気候・農業			
	15	地理(農業・工業)			農業・工業			
履修上の留意点								
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。								

授業計画(シラバス)

科目名		教養Ⅲ(総合)		指導担当者名		阿部 純也		
実務経験							実務経験:	
開講時期		後期		対象学科学年		救急救命士科2年		
授業方法		講義:○		演習:		実習:		実技:
単位数		4単位		週時間数		2時間		
学習到達目標		受講者はこの授業を履修することにより、現代社会の成り立ちを理解するために必要な基礎的な考え方、知識の習得に努める。具体的には以下の項目となる。 (1) 歴史: 日本と世界の主要な歴史とそれをもとに現代社会の形成に至る流れ。 (2) 地理: 世界各国の地勢及び地誌を産業や人口的な面などから分析。 (3) 政治経済: 民主政治の展開と現代社会の政治問題、経済問題。 (4) 時事問題: 現代の国内外の諸問題のについて現状把握。						
評価方法 評価基準		学習評価は、定期試験(80%)、出席・授業態度(20%)とし、100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A、・79～70点…B、・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)						
使用教材		オープンセサミシリーズ1(政治・経済・社会)・2(日本史・世界史・地理・思想)						
授業外学習 の方法		テキストを使用した問題演習						
学期	ターム	項 目			内容・準備資料等			
授業計画 後期	16	地理(各国の地誌)			各国の地誌			
	17	地理(日本の地誌・人口問題)			日本の地誌・人口問題			
	18	問題演習			問題演習			
	19	政治(日本国憲法)			日本国憲法			
	20	政治(人権思想の歴史)			人権思想の歴史			
	21	政治(日本の政治)			日本の政治			
	22	政治(国際政治)			国際政治			
	23	経済(経済のしくみ)			経済のしくみ			
	24	経済(日本の経済史)			日本の経済史			
	25	経済(国際経済)			国際経済			
	26	経済(経済学の原理)			経済学の原理			
	27	問題演習			問題演習			
	28	社会(社会保障・時事問題)			社会保障・時事問題			
	29	社会(労働問題・時事問題)			労働問題・時事問題			
	30	社会(国際問題・時事問題)			国際問題・時事問題			
履修上の留意点								
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。								

授業計画(シラバス)

科目名		災害概論		指導担当者名		藁谷 暢	
実務経験						実務経験:	
開講時期		後期		対象学科学年		救急救命士科1年	
授業方法		講義:○		演習:		実習:	
実技:		単位数		2単位		週時間数	
2時間							
学習到達目標		多数傷病者の特異性を理解する。					
評価方法 評価基準		学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)					
使用教材		救急救命士標準テキスト 第9版下巻、プロジェクター					
授業外学習 の方法		テキストを使用した問題演習					
学期	ターム	項 目		内容・準備資料等			
授業計画 後期	1	災害の概念		救急救命士標準テキスト第9版下巻に準拠			
	2	災害の概念		救急救命士標準テキスト第9版下巻に準拠			
	3	特殊災害		救急救命士標準テキスト第9版下巻に準拠			
	4	特殊災害		救急救命士標準テキスト第9版下巻に準拠			
	5	シミュレーション		救急救命士標準テキスト第9版下巻に準拠			
	6	シミュレーション		救急救命士標準テキスト第9版下巻に準拠			
	7	多数傷病者対応、トリアージ		救急救命士標準テキスト第9版下巻に準拠			
	8	多数傷病者対応、トリアージ		救急救命士標準テキスト第9版下巻に準拠			
	9	シミュレーション		救急救命士標準テキスト第9版下巻に準拠			
	10	シミュレーション		救急救命士標準テキスト第9版下巻に準拠			
	11	大規模災害		救急救命士標準テキスト第9版下巻に準拠			
	12	大規模災害		救急救命士標準テキスト第9版下巻に準拠			
	13	シミュレーション		救急救命士標準テキスト第9版下巻に準拠			
	14	シミュレーション		救急救命士標準テキスト第9版下巻に準拠			
	15	まとめ		まとめ			
履修上の留意点							
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。							